

2013年度 言語教育科学 A

言語教育科学とコミュニケーション研究 A：木曜日 3限 (322)

担当教員：宇佐美まゆみ

E-mail：usamima@tufs.ac.jp

研究室：740号室

授業の目標

「言語教育学」とは、諸言語の教育の現場や関連諸領域と相互交流しながら、言語教育に関する理念的、理論的基盤を研究する研究領域である。ここでは、主に、第二言語・外国語としての言語の教育の理論的基盤となる第二言語習得論、言語運用やコミュニケーション能力の解明の基礎となる語用論を中心に概観するとともに、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）や、ACTFLの口頭能力試験（OPI）など、世界の諸言語の言語能力の記述や評価の基準を体系化しようとする試み等も扱う。これらの個別言語の枠を超えた基礎的知識や主要理論を学ぶことによって、それらを様々な個別言語の教育や研究にも応用できる力を養うことを目標とする。

授業の概要

言語運用やコミュニケーション能力の解明の基礎となる語用論を中心に、第二言語の教育の理論的基盤となる第二言語習得論、世界の諸言語の言語能力の記述や評価の基準を体系化する試み等、幅広い分野をカバーする。

授業の計画

主に、講義形式で進めるが、可能な限り、グループ・ディスカッション、共同作業などを取り入れたい。概ね以下のように、授業を進めていく。

成績の評価

普通の授業への貢献度（積極的発言等）（10%）、毎回の簡単な感想文（40%）、最終課題（持ち込み可の試験かレポート）（50%）などによって、総合的に評価する。

受講上の注意

原則として、「言語社会心理学Ⅰ」を履修済みの者を対象とする。該当しない者は、必ず、事前に相談すること。また、「言語教育学（演習）：自然会話分析法Ⅱ」を履修する者で、2年次にこの科目を履修していない者は、必ずこの授業も併行して履修すること。

夏季休暇中に、以下のテキストを読んでおくことが望ましい。

テキスト・教材

宇佐美まゆみ編著（1997）『言葉は社会を変えられる』明石書店。

提出物

(1) 毎回授業についての感想を A4 用紙一枚にまとめてください。

※ メールと紙の両方の提出をお願いします。

※ 感想文(メール)送信先 2013moku3-2@tufs.ac.jp

件名：木 3 言語教育科学(名前)日付

【例】2013 年 10 月 17 日の授業の感想文の場合

件名：木 3 言語教育科学(新井)10 17 13

★ 数字と括弧はすべて半角に統一する

★ 日付は授業日を書く(10 17 13→10 24 13→10 31 13 の順に)

※ 感想文(紙)提出先 707 室前のボックス

※ 締め切り 授業の翌週の水曜日 12:00 まで(時間厳守)

(2) 中間、期末レポート送信先 moku3report@gmail.com(詳細は後ほど)

日付	授業の計画
1 (10/3)	導入(これからの授業の流れや内容のオリエンテーション)
2 (10/10)	言語教育科学とは？学際的分野、複合領域とは？
3 (10/17)	コミュニケーション能力養成のための「自然会話を素材とする教材」の紹介
4 (10/24)	視点としての「学」とは？ Ppt 1
5 (10/31)	コミュニケーションのための言語教育学(1)発話行為理論
(11/7)	休講 (月曜日の授業振替日)
6 (11/14)	コミュニケーションのための言語教育学(2)語用論
(11/21)	休講 (外語祭)
7 (11/28)	ポライトネス理論の流れ
8 (12/5)	ポライトネス理論とは？ (1)
9 (12/12)	ポライトネス理論とは？ (2)
10 (12/19)	ディスコース・ポライトネス理論
11 (1/16)	ジェンダーとポライトネス
12 (1/23)	ジェンダーと言語教育科学
13 (1/30)	第二言語習得理論とポライトネス
14 (2/6)	真のコミュニケーション能力の評価とは？(CEFR、ACTFL 等の再検討)
15 (2/13)	まとめ